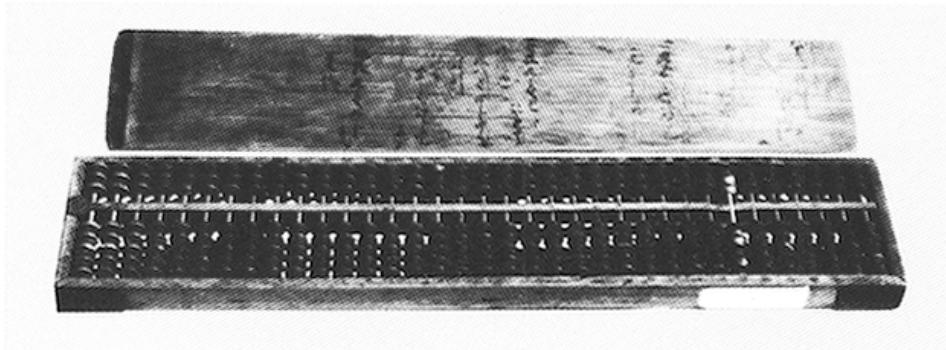


# 愛知の博物館

No.44



八つ珠だま そろばん 鈴木そろばん博物館

(上球)	(下球)	(桁)	タテ ヨコ 高サ	珠材	枠材	桁材	指し方
3	5	35	15.7×76.3×3.6	梅	櫻	削竹	本指

大型そろばんの特色として、裏板が右引き出しとなっている。組み方は蟻継ぎによって枠を指し、三角ほぞがタテ枠上に出ている。上枠、下枠上に単位が赤うるして記されている。「百十垓千百十万千百十京…………一」と上枠上に、八進法（万々進方）であり、数詞の八進法を使用した頃は、室町～江戸時代初期で、年代的に使用されたのは、3～400年前かと考えられる。「一重円」時代先人の先見の明があったか、「八つ珠そろばん」は現存する古そろばん中珍らしいもので、現在江戸時代作のものは、3個発見されている。山形県山寺、和歌山県橋本市に2個あるが、江戸中期から末期のものである。裏引き出しの表面に古文書が、赤外線フィルムによって写し出されて、右のごとく記されている。

裏引き出し板の上に、裏板が修理してうちつけてあり、古文書が、消えずに残ったものと思われる。

鈴木そろばん博物館館長

鈴木俊夫

米一	一、一、	代た四
四 残□同	七方加	加は月
代拾 壱カ	拾利両	□こ三
九 両面ケ	九共□	五清様日
両 武引	両六	左行
六 歩	八七	□利衛
歩 四	や歩	也□門
壱 壆	男	
壆追	十	□
□	郎	

## 目 次

- 第12回三県博物館協会交流研究会の報告……………2
- 研究討議の概要……………2
- 第12回三県博物館協会交流研究会に参加して………3

## 第12回 三県博物館協会交流研究会の報告

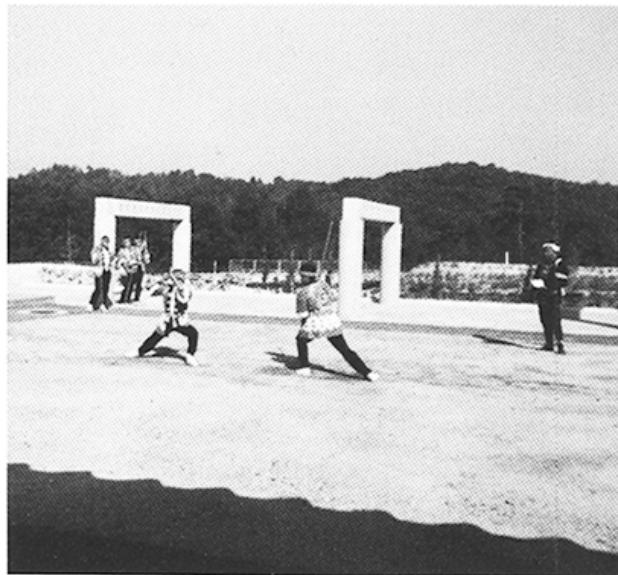
昭和62年10月29日(木)から同30日(金)の2日間にわたり、第12回三県博物館協会交流研究会が、豊田市の猿投棒の手ふれあい広場及び豊田市周辺で開催されましたので、その概要を御報告します。

日程第1日目(会場 猿投棒の手ふれあい広場)

- 12:30~13:00 受付
- 13:10~14:00 愛知県指定無形民俗文化財「棒の手」を鑑賞
- 14:10~16:20 研究協議  
「博物館へのアクセス」

上記議題のもと、三重県=鳥羽水族館長中村幸昭氏、岐阜県=岐阜県博物館人文係長大前匡昭氏、愛知県=名古屋海洋博物館副長平澤康男氏の三氏による事例発表のあと、参加者による活発な討論が行われた。

討論会終了後、場所を宿舎である愛知県営鞍ヶ池ロッジに移し、懇親会が行われ、第1日の日程を終了した。



日程第2日目(見学会)

- 9:00~ 宿舎出発
- 9:15~ 9:45 豊田市郷土資料館見学  
開催中の特別展「豊田の神社」鑑賞
- 10:00~12:00 トヨタ会館・トヨタ自動車工場を見学  
昼食の後、解散した。

## 研究討議の概要

(テーマ) 博物館へのアクセス  
——交通から見た三県博物館  
の連携のありかたを探る——

実行委員 海老沢立志

三県博物館協会交流研究会で行われた研究討議につきその概要を記して報告とします。

1. 愛知、岐阜、三重の博物館関係者が年1回集まり、種々に協議する場にふさわしいテーマをと言わながら、これまでには、所謂博物館学でよくとりあげられるテーマが多かった。しかしながら、三県博物館に共通するテーマで積極的に結びつけていく話題、お互いに役立つテーマの設定ということで、昨年開催の三重県ではPRの問題がとりあげられ、今回は、クルマの町・豊田市にもちなんでアクセスの問題をテーマとしてとりあげた。

博物館学では、館内の導線計画はよく問題にされるが、入館前の問題、博物館へ入館者を導き入れる、引きつける導線計画としてのアクセスをテーマにした。

2. (鳥羽水族館 館長 中村幸昭氏の発表)

最近の交通事情と博物館との結びつきにつき、全国的な傾向を説明。三県に関しては、名古屋は東海道新幹線の名古屋駅を拠点に四周へ結びつけられる好条件があり、また新空港建設の話も出ているが、岐阜・三重両県には空港も無く、また県内でも日帰り出来ない地域があるなど交通の便が悪い。交通は距離ではなく時間との競争である。

現在はマイカーを抜きにしては考えられないが、道路と駐車場の問題が重要である。

交通問題は一館だけで解決できないことも多く、国や県の交通関係の会合にも参加することを考えたり、関係向に協会として陳情していく努力も必要である。

3. (岐阜県博物館 人文係長 大前匡昭氏の発表)

岐阜県博物館の入館者を見ていると入館者の発地からの距離の遠近と来館者数とは反比例していないことがわかる。交通の便、不便による影響が大きい。岐阜県内全体を見ると南北は結びつけ易いが、東西は結びつけ難い。西濃地区は勿論、岐阜市地区と東濃地区とは結びつきが薄い。一方特別展の内容によっては、遠く他県からの団体入館者もあった。

4. (名古屋海洋博物館 副長 平澤康男氏の発表)

同館開館以来の入館者の発地別調査の報告。日帰り圏、タイムディスタンスなど実例で説明。

5. 質疑応答を通じ、アクセスだけでなく種々な話題が紹介され、大変有意義な情報交換の場となつたが、アクセスにしばり主な点を下記にまとめることとする。

- (1) 交通便利な所だけが、必ずしも博物館としてふさわしい立地条件とは限らない。辺鄙な所にあっても、内容がよくビジネスとして成り立てば道ができる。交通体系が良くなる。ディズニーランド、長崎オランダ村などの例がある。

(中村氏、常滑市民俗資料館館長 長谷川進氏)

- (2) 交通は、なるべく早く（時間、距離）なるべく安く（経済性）ということに尽る。家族、友人など4～5人でマイカー利用という人が多くなっている。それに対し駐車場の完備、マイカー利用者に対するPRなど考えなければならない。

(中村氏、長谷川氏)

- (3) 公共交通機関との連携が必要。

三県にまたがっているJR東海会社が現在1つのキーポイントになっている。中距離運賃の特別割引や三県の博物館めぐりの企画など、博物館側から働きかける必要がある。

(中村氏)

- (4) 参加型博物館について、愛知県陶磁資料館館長日下氏、岐阜県陶磁陳列館加藤氏、修学旅行の動向について博物館明治村間野氏をはじめ濃飛甲冑研究所吉田氏、赤目民俗館上田氏、志摩マリンランド大久保氏等の発言があった。また各事例発表者からの応答、補足説明もあり、時間があればもっと深めたい話題が多かった。



6. 交通の変化に対処し、積極的に博物館側から働きかける必要が認識された。

討議の総括としてまとめると、三県の各館は、自分の県内だけで交通問題を解決するだけでなく、県域をはずして考えたり、また適切な館どうし連携する方向で考えることが必要である。

(博物館明治村 部長)

## 第12回三県博物館協会 交流研究会に参加して

水野礼子

今回豊田市において三県博物館協会交流研究会が開かれました。テーマは「博物館へのアクセス～交通から見た三県博物館の連係のあり方を探る～」でした。

会場となった猿投棒の手ふれあい広場は周辺の交通機関が少なくこのテーマを考えるにふさわしい場所でした。各県よりそれぞれ1名ずつ計3名の方々の発表がありました。

名古屋海洋博物館の平澤さんは、来館者は距離的にどのあたりからくるのか、又学校の団体を動員するにはどの学年をねらえば誘致する確率が高くなるかなどについて話されました。その第1がなんといっても館までの道のりと、所要時間の問題です。最近では電車を使って出かける学校が少くなり、大半がバスを使って出かけるようになりました。バスを使うようになった理由は主に交通経路上発生しやすい事故等から子供たちを守るためにあります。バスが来訪の手段になってきますと、まず駐車場の問題が出てきます。

すなわち利用者側としては往復の所要時間がどれくらいかかるか。受入側としては駐車場の問題とこの2点が大きな問題と思われます。

以前、私はモンキーセンターの普及活動の一環として、愛知県内の教育事務所を訪問したことがあります。その時対応された教育事務所の先生方からよく聞かされました、「校外学習の行き先も、時々違った場所へ連れて行ってやりたいと思っているのですが、往復の時間のことを考えると、どうしても行き先が限られてしまい、遠くへ連れて行くのが大変むつかしい」と言っておられました。往復に要するバスの時間がかかりすぎて、県内では特に三河地区から、又知多地区からもかなりきびしいという感じでした。

平澤さんの発言にもあったように近辺からの誘致がむつかしいとなれば、次の目標はより遠くから来る修学旅行を対象にする以外にありません。修学旅行も中学校や高等学校ぐらいになるとかなり遠いところからでも可能になります。最近では高速道路の発達により中学校あたりでも関東、東北方面からとか高校では九州方面からも簡単に来られるようになりました。

日本モンキーセンターでは、遠くの学校をねらって北から南までかなりの広範囲にパンフレットを配りました。このパンフレットの発送もなかなか大仕事ですが、愛知県に観光客や学校団体を誘致するということで愛知県内の文化的・教育的施設をまとめて紹介することはできないものでしょうか。例えば、愛博協の加盟団館のパンフレットを有効に利用し配布できないものでしょうか。

外に向かって以上述べたような努力をしてきましたが、次に考えねばならないこととして、来館者への対応の仕方について見直す必要があると思います。

正しく博物館を利用してもらうには、学校側と十分な打合せをすることが大切だと思います。最近では観光業者に任せきりで、見学について打合せも十分にされない学校もありますが、見学に関することは業者抜きで直接先生と打合せをすることが必要だと思います。これをきちんとやっておかないと来館当日必ずと言ってよいほどトラブルが生じるのであります。

次に展示についてですが、これは各館園によってそれぞれの主張がありますので一概には言えませんが、人々を引き付ける展示をするということは、どの館でも考える共通なことです。簡単なようでもつかしい問題です。立派な展示を行い、価値あるものを展示しても、展示物を見ただけでは理解できないことがあります。展示を行うにあたって担当学芸員は多大な努力と苦労をしています。これをそのまま眠らせておくのはもったいないことだと思います。そのうちのほんの一部分でも来館者にその気持ちを伝えることができたならば、来館者は一つの展示物が倍の輝きをはなって見えるにちがいありません。博物館側の意志を伝えると共に学芸員の貴重な体験を来館者に聞かせるべきだと思います。

そこから博物館と利用者の接点が生まれてくると思います。

日本モンキーセンターでもレクチャーを長年やっていますがお陰で好評を得ています。展示全体を説明して回ることはなかなかできませんが、見学の手引きをしてあげるだけでとても喜ばれています。あとは、学校側が博物館に何を望んでいるのか、要求事項を聞いて出来るだけのことは双方話し合いのもとに進めていけば学校側としても見学しやすくなることだと思います。

博物館側も学校側もお互いに協力してより良い博物館作りをめざしてゆきたいと思います。

(日本モンキーセンター学芸員)



### 訂正とお詫び

「愛知の博物館」No.43におきまして、表紙の杉本健吉氏作品の名称並に解説に、杉本健吉とするところを杉本憲吉と記しました。本号におきまして、誤りを訂正し、併せまして失礼を深くお詫びいたします。

### 「愛知の博物館」No.44

発行日 昭和63年2月1日  
編集・発行 愛知県博物館協会  
〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地  
愛知県陶磁資料館内  
<0561> 84-7474